

令和6年度 四万十森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

令和 6 年 4 月

四万十森林管理署

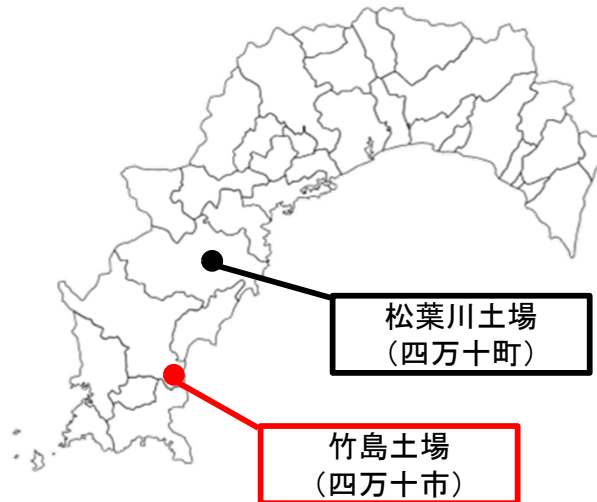
① 木材の安定供給への取組

- 令和6年度の原木生産量69,200m³を確保
- 四万十市竹島及び四万十町松葉川土場の中間土場を活用した民有林と国有林の連携による国産材の安定供給を推進。
- 樹木採取権制度の取組(立木を一定期間、安定的に伐採できる権利)

■ 生産事業



■ スtockヤード(土場)の整備箇所



土場全体(竹島土場)



桧積み(竹島土場)

② 地域の安全・安心を守る災害・治山対策の強化

豪雨等により被災した荒廃山地の早期復旧及び緑の国土強靱化や既存施設の機能強化・長寿命化への取組を推進。

また、近年は大雨や短時間強雨の増加により、大規模、多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、本年度は7箇所で行山事業を実施予定。

■高岡郡四万十町の災害現場

崩壊地現況 (R4年)



常泉畑山国有林復旧状況 (R5年)

■高岡郡中土佐町の災害現場

荒廃現況 (R4年)



尻高山国有林現況 (R5年)

■令和6年度事業予定

治山事業	
予定箇所	尻高山(中土佐町)
	深谷灘山(中土佐町)
	下大物川山(宿毛市)
	<u>上中山(土佐清水市)</u>
	<u>カツラ谷山(四万十市)</u>
	大森山(三原村)
尻高山(中土佐町)	
計	7箇所

※下線は令和6年度新規地区
 ※赤字は令和5年度より繰越工事

③ 市町村の林務行政への技術的支援

市町村(幡多地区・須崎地区)の林務担当者を対象とした「森林・林業セミナーin四万十」を開催。令和5年度からは高知県各林業事務所と連携して取り組むことにより、技術面の習得の他、情報交換を行い、国・県・市町村の連携の強化を図り各市町村の林務担当者の負担軽減に繋げる。

■森林・林業セミナーin四万十(幡多地区)令和5年9月
内容:森林作業道作設及び立木伐倒



■森林・林業セミナーin四万十(幡多地区)令和6年2月
内容:造材方法や選木機器の見学、収穫調査方法



■森林・林業セミナーin四万十(須崎地区)令和5年12月
内容:植栽及び獣害対策(単木保護)の説明及び体験



■森林・林業セミナーin四万十(須崎地区)令和6年2月
内容:伐倒・集造材の見学 座学(木材の流通・利用及び安全関係)



④ 地域の森林・林業を担う人材育成

林業技術に関する「現地検討会」や「ICT(ドローン等)を活用した講習会」を開催し、林業事業者等の技術力の向上や担い手の育成を推進

■ 令和6年度現地検討会の開催計画

予定月	検討会テーマ	場所
7～8月	架線系集材に関する現地検討会	ヤカラミ山国有林 (津野町船戸)

※ 上記は、現地事情や事業進捗状況等により追加や変更する場合があります。

■ 現地検討会・ドローン講習会等の様子



ナラ枯れ被害状況現地検討会
(土佐清水市)



列状間伐及びストックポイント現地検討会
(四万十町)



ドローン講習会
(幡多農業高校)



ICTを活用した森林調査講習
(幡多農業高校)

⑤「新しい林業」に向けた取組の推進

- ・ 下列りの省力化等により造林・保育の省力化・低コスト化への取組
- ・ 一貫作業システム（伐採・搬出から植栽の作業を一括契約）を実施
（立木販売と造林の混合契約）
- ・ **複数年契約（伐採・搬出等の作業を複数年（3年以内）で契約）を実施**

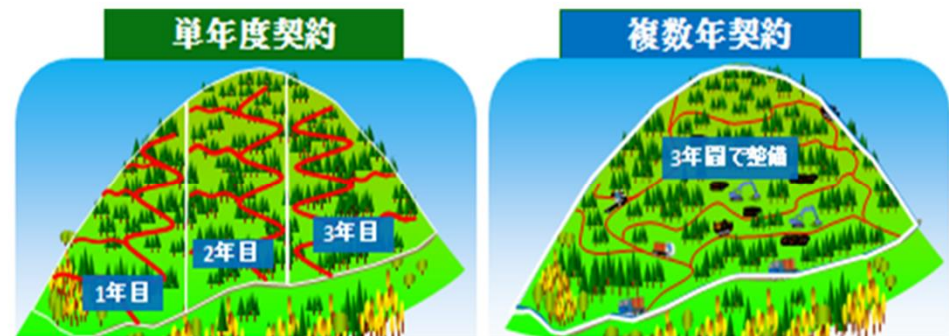
令和6年度 複数年契約実施予定地区等

複数年契約	樹木採取権	混合契約
<ul style="list-style-type: none"> ・ 梶原町 久保谷山(104ha R4～R6年度) ・ 四万十町 橋川原山(83ha R4～R6年度) ・ 四万十市 二ノ又山(91ha R5～R7年度) ・ 四万十市 黒尊山(73ha R6～R8年度) ・ 四万十町 折合川山(68ha R6～R8年度) ・ 中土佐町 島ノ川山(79ha R6～R8年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十町 相ノ峠山 (約3.4ha R4年度～)(植付) ・ 中土佐町 下ル川山 (約7.8ha R4年度～)(植付) ・ 中土佐町 下ル川山 (約2.4ha R5年度～) ・ 四万十町 四十畑山 (約3.9ha R5年度～) ・ 四万十町 上源見山 (約4.6ha R6年度～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四万十市 唐谷山 (9.14ha R5～R7年度分)

一貫作業システムと従来システム



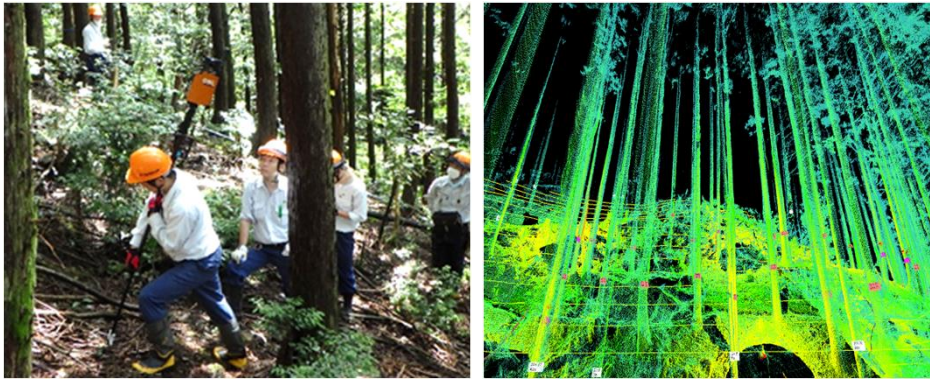
複数年契約による森林整備



⑥ ドローン・ICTの新技術の積極導入

- 地上型3Dレーザースキャナー(OWL(アウル))を活用した森林資源調査を行うことで、調査時間と労力削減を図る。
- ドローンを5台保有し、本署・森林事務所へ配備することで、森林資源調査の他、山地災害発生時の対応やシカ被害対策等への積極的な活用を実施

■地上型3Dレーザースキャナ(OWL)を活用した立木調査



■シカネットの点検(ドローン)



■事業の進捗状況を確認(ドローン)



【地上型3Dレーザースキャナ(OWL)の特徴】

- ① レーザー光を360度射出しながらレーザー スキャナーを180度回転させ、周辺に存在する物体の形状を把握する。(約4万3千点/秒)
- ② 400㎡(20m×20m)の区域を1人で10分程度で精密に調査できる。
- ③ 3次元点群画像により、林内をリアルに再現。計測者の個人差なしに大量の森林データを短時間で取得可能。

■山地災害状況を確認(ドローン)



■林道災害状況を確認(ドローン)



⑦ 地域の課題への対応

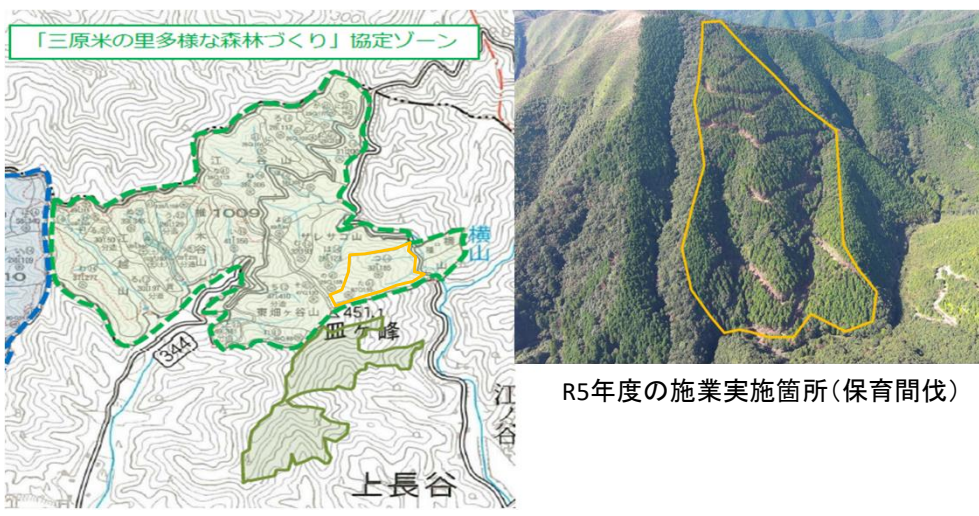
- 「三原米の里多様な森林づくり活動」の推進
- 入野松原(黒潮町)の保全(松くい虫防除対策)
- 「土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト」の推進
- 自然災害発生時に迂回路として国有林林道等の活用

■三原米の里多様な森林づくり活動(三原村)

【特徴】

平成31年4月、三原米の水源を育む森林づくりや森林環境教育の活動推進等を目的に、三原村と四万十森林管理署において協定を締結し、課題の整理や改善対策等について検討しています。

令和5年度は、協定ゾーン内において保育間伐を実施しており、今後も継続した森林整備に取り組めます。



■入野松原の松くい虫防除(黒潮町)

【特徴】

黒潮町の入野松原を保全することを目的に、高知県、黒潮町、四万十森林管理署が連携し、毎年5～6月に薬剤の地上散布を2回実施しています。

更には、毎年1月下旬～2月上旬に薬剤の樹幹注入を行い、2～3月頃に被害木の除去(衛生伐)を行うなど松くい虫防除対策に努めているところです。



薬剤の地上散布

■土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト(大月町)

【特徴】

土佐備長炭の原料である「ウバメガシ」の確保に向け、地域と連携し国有林材の安定供給に努めています。

また、本年度より職員実行による苗木の育成にも取り組む予定としています。

